

# 北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第887号 平成27年2月26日

## 3953人(1)

3963人というのは、文部科学省が実施した「平成25年度公立学校教職員の人事行政状況調査」によって明らかとなった、体罰で処分された教職員の数です。

この「人事行政調査」というのは、文科省が都道府県・指定都市の教職員の人事管理に資する事を目的に実施しているもので、調査対象は47の都道府県と20の指定都市における公立学校（小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校）の教職員となっています。

また、調査項目は、

- ・教育職員の病気休職者等
- ・教育職員の懲戒処分等
- ・指導が不適切な教員の認定及び措置等

等多岐にわたっており、体罰の実態把握もその一つとなっています。

なお、体罰に

体罰の校種別発生件数等

区 分	小学校	中学校	高等学校	中等学校	特別支援学校	合計
発 生 件 数	1,048件	1,819件	1,045件	2件	39件	3,953件
被害児童生徒数	1,892人	3,973人	2,968人	2人	45人	8,880人

関しては公立学校だけではなく、国立学校や私立学校も調査の対象とされています。

さて、冒頭述べたように、2013年度（平成25年度）の調査では体罰によって全国で3953人の教師が処分されていますが、これはこれまでの調査以来最多となっています。

文部科学省では、被処分者が増えた背景について、大阪市立桜宮高校の体罰自殺問題を受けた緊急調査で大量に発覚した2012年度（平成24年度）分の体罰が2013年度に処分されたためと見ているようですが（1月31日付読売新聞他から）、それにしても依然として深刻な状況である事に変わりはありません。

まず、体罰について、発生件数、被害児童生徒数の校種別の状況を見ると、下表の通り、中学校が圧倒的に多いという現状にあります。

その背景については様々考えられると思いますが、大きな要因の一つは中学生という年代における心身の発達段階の特性があると考えられます。

文部科学省では、「子どもの徳育の充実に向けた在り方について（報告）平成21年」の中で、中学年代の発達段階の特性を次のように整理しています。

「中学生になるこの時期は、思春期に入り、親や友達と異なる自分独自の内面の世界があることに気づきはじめるとともに、自意識と客観的事実との違いに悩み、様々な葛藤の中で、自らの生き方を模索しはじめる時期である。また、大人との関係よりも、友人関係に自らへの強い意味を見いだす。さらに、親に対する反抗期を迎えたり、親子のコミュニケーションが不足しがちな時期でもあり、思春期特有の課題が現れる。」と指摘すると共に、生徒指導に関する問題行動などが表出しやすいのが、思春期を迎えるこの時期の特徴だとしています。

中学校の教師の皆さんは、日々の授業においても、また、部活動においても、そうした中学生の発達段階の特性を十分理解した上で、指導に当たる必要があります。

次に、下表は、体罰の被害を受けた小学校から高等学校の児童生徒数をまとめたものですが、これを見ると幾つかの特徴が見て取れます。

まず、小学校では、学年が上がるに従い体罰を受ける児童が増えて来

被害児童生徒の発達段階別(小学校から高等学校)の状況

小 学 校						中 学 校			高等学校		
1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
95	165	305	358	432	537	1,381	1,839	743	1,402	1,093	473

ます。これは、児童の成長と共に問題行動が顕著になる一方、そういう児童を扱い兼ねている先生の姿が垣間見えます。

中学1年、高校1年の段階で急に被害生徒が増えるのは、中1ギャップ、高1クライシスという言葉がありますが、生徒にとって環境が大きく変わる中で、生徒も教師も旨く対応しきれていない面があると感じます。

また、高校では、学年が進行するに従い落ち着いて行くようですが、中学校では2年生の被害が最も多いという特徴があります。これは、部活動との関連が大きいように思います。

次に、体罰の場面についてみると、下表の通りとなっていますが、小学校では授業中が圧倒的に多く、中学校や高等学校では部活動の場面での体罰が最も多いという状況です。

体罰の場面

授業に集中しない児童が一人でもいると授業が成り立たず、他の子ども達の迷惑にもなりますので、教師の皆さんは大変ご

区分	小学校	中学校	高等学校	中等学校	特別支援学校
授業中	61.4%	23.6%	22.3%	50.0%	48.7%
放課後	4.6%	12.7%	9.8%	0.0%	7.7%
休み時間	15.8%	11.8%	7.8%	0.0%	20.5%
部活動	1.0%	38.5%	43.4%	0.0%	2.6%
学校行事	3.1%	2.9%	6.3%	50.0%	5.1%
ホームルーム	4.0%	3.0%	3.2%	0.0%	2.6%
その他	10.2%	7.4%	7.3%	0.0%	12.8%

苦労されているとは思いますが、子ども達を体罰でコントロールしようとするのは、そもそも指導と体罰の違いを良く理解していないというだけでなく、教師としての

力量不足が大きいといわざるを得ません。

また、運動系の部活動では、体罰に関して「気合を入れるため」とか「集中力を高めるため」といった誤った認識が依然として多いという事だと思えます。

体罰は子ども達の心身の発達に悪影響を与えるのみで、もしも体罰によってチーム力が向上したとか、子ども達の運動能力が向上したといった誤った認識が部活動指導者から払拭されなければ、いつまで経っても部活動での体罰は無くなるはずはありません。(続く) (塾頭：吉田 洋一)